

# 土木と社会セミナー

第一回（10月7日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「まちづくりワークショップのファシリテーター今昔物語」



ゲスト：  
吉田まりえさん / 九州の暮らし創造研究所 代表

私がまちづくりワークショップに出会ったのは社会人2年目の1996年。ワークショップの黎明期でした。建設コンサルタントを退職して、ファシリテーターをめざし、その後も私が大学生の時に社会に存在しなかった新しい職業や専門性を身に着けて今日に至ります。時代の変遷を振り返りつつ、地域に暮らす方々の多様な価値観をものづくりに昇華させていくには、ワークショップやファシリテーターがどうあつたらよいか、私なりに考えてきた役割や意義についてお話をします。

第六回（11月25日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「土木技術者とプロフェッショナル～建設コンサルタントで働く意味とは～」



ゲスト：  
西井康浩さん / 株式会社三洋コンサルタント 取締役九州支店長

社会資本整備に従事する土木技術者は、職務の重要性を認知し、業務の履行を通じて持続可能な社会の実現に貢献しなければなりません。海を専門とする建設コンサルタント業の面白さを紹介するとともに、プロフェッショナルエンジニアとしての技術者アイデンティティを探る大変さも伝えたいと考えています。特に、建設コンサルタントの技術者として必要不可欠な国家資格である技術士とキャリア形成・技術者倫理の重要性、津波災害に対する防災・減災のトランクスエンジニア問題など、少し掘り下げたテーマについても触れてみたいと考えています。

第二回（10月21日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「研究者という仕事～研究そして論文～」



ゲスト：  
秋本福雄さん / 九州大学名誉教授  
英国誌プランニング・ペースペクティブズ編集委員

「勉強する」とこと「考える」ことは違います。「勉強」は「知識を得る」ことですが、「考える」とは「なぜこうなるのか不思議に思い、仮説立て、事実に照らし、答えを探す」ことです。研究はこの「考える」ことにあたり、論文はその成果です。世の中の多くの知識、情報の中で私たちは必要なものを取捨選択・整理し、事実に即して確かめ、真実を探す。研究とは何か、論文とは何か。自分の経験を通してお話ししたいと思います。

第七回（12月2日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「土木と情報サービス～情報サービス提供の裏側～」



ゲスト：  
田中浩介さん / NSSLC サービス株式会社  
DCサービスセンター

みなさんインターネットってご存知ですか？ 天気予報や電車の運行情報の確認、友達との連絡、研究のための情報収集、飲食店の予約など、インターネットを使って様々な情報サービスを利用していることと思います。しかしこれらの情報サービスは、いったいどこで、どのように提供されているのでしょうか？ 日々の生活に欠かせないものとなった情報サービス提供の裏側をご説明いたします。そこでは自然災害が発生しても安定的にサービスが提供できるように、様々な土木技術が活用されていることを理解頂けると思います。

第三回（10月28日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「天職のススメ！  
～ムラの命をマチの暮らしに、マチの力をムラの生業に～」



ゲスト：  
養父信夫さん / 一般社団法人九州のムラ 代表理事  
「Nippon NO MURA」編集長

都市農村交流、民泊、農村体験、六次産業化、都会からの移住定住、地域おこし協力隊、インバウンドなど、日本は農村漁村の活性化に向けてまさに「地方創生」の時代です。宗像の神官の家に生まれ、九大法医学部を86年卒業し、上京し、株式会社リクリートに入社、10年勤務の後、都市と農村をつなげるべく起業。ムラのメディア、企業とのムラプロジェクトなどを立ち上げてきた約18年間の活動やそこに至った経緯などについてお話をします。

第八回（12月9日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「コンサルタントと川づくり」

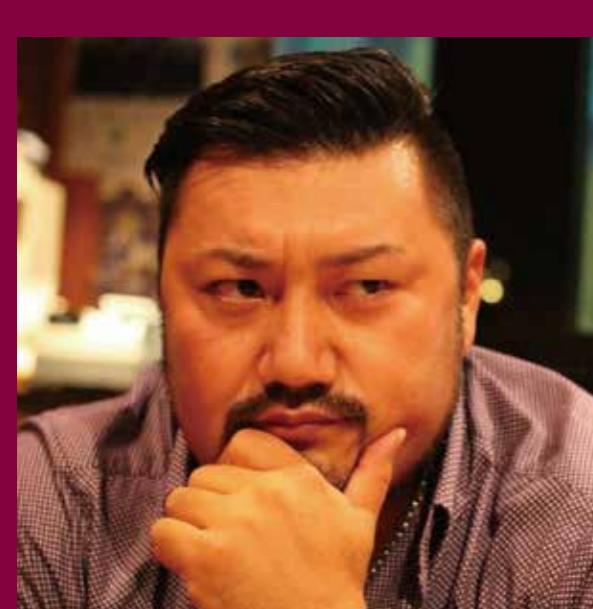


ゲスト：  
竹内えり子さん / 株式会社建設技術研究所  
中部支社環境室

私は近自然の川づくりを仕事にしたいと思い、建設コンサルタントに就職しました。近自然という言葉はあまり聞き慣れないかと思いますが、多自然と同じ意味です。整備の際に、いかに自然に近づけることができるかを考えています。これまでに出会った大先輩の技術者の方々から、石や木など自然素材を使った川づくりの考え方や技術、河川環境の捉え方、仕事に対する姿勢について学び、仕事をしてきました。川を通じた出会いやコンサルタントの仕事を紹介しながら、最近考えていることなどをお話したいと思います。

第四回（11月4日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「インフラを守り、命を守る『特殊高所技術者』という生き方」



ゲスト：  
山本正和さん / 株式会社特殊高所技術 専務取締役

「特殊高所技術」とは、高強度のロープや特殊な機材を使うことで、リフト車や橋梁点検車といった通常の方法では近接できない、主に高所において、技術者が安全に対象に近接し調査点検・非破壊検査・補修工事を可能にする技術の事です。インフラを造っては壊す時代から、今あるモノを守って少しでも長く使う時代に移行した今、メンテナンスの基本である点検の重要性は高まっています。  
近接が重要な理由や事例の紹介を通して「特殊高所技術者」という生き方の魅力をお伝えします。

第九回（12月16日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「女性ならではのライフイベントと付き合いながら働くということ」

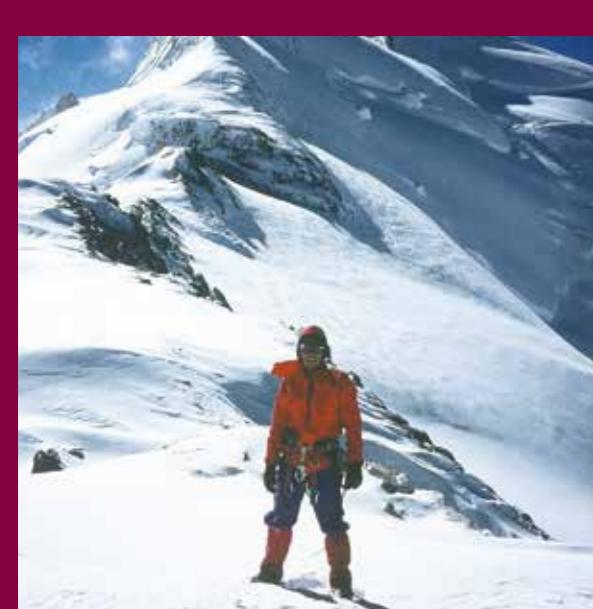


ゲスト：  
田浦扶美子さん / 九州大学流域システム工学研究室  
学術研究員

九大大学院を修了し、土木の専門性を生かしたキャリアの道を歩み始めたものの、結婚・出産・夫の転職などに伴い、住む場所、仕事も転々となる人生…そんな中、異なる仕事で得た経験を積み上げどのように一貫性のあるキャリアを築けるのか？家庭と仕事のバランスをどのように取りながら納得のいく人生を過ごすのか？バリキャリではない働き方を模索しながら奮闘中の現在進行形ドキュメントをお話します。

第五回（11月11日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「私のライフ・ワーク・バランスとまちづくり」



ゲスト：  
清水剛さん / 大分市役所  
都市計画部次長兼都市計画課課長

「ライフ・ワーク・バランスは、仕事と生活の調和を目指して仕事にやりがいや生きがいを見出しつつ、家庭生活や趣味との調和により…」といった「仕事と生活の調和憲章」が平成19年に政府より示されました。私は国の憲章とはちょっと異質なライフ・ワーク・バランスを実践しています。これまでかかわってきた大分駅周辺総合整備事業や景観形成など、仕事の進め方や考え方を整理するにあたり、趣味の登山や自転車競技が仕事にどのような影響を与えてきたのか、お話をします。

第十回（1月27日）@西講義棟3階工学部第3講義室

「九大遺跡博物館構想  
～伊都キャンパスの開発と元岡桑原遺跡群の保存」



ゲスト：  
岩永省三さん / 九州大学総合研究博物館

九大伊都キャンパスでは、開発に先立つ発掘調査で、学術的価値が高い遺跡が多数発見されました。それらは糸島や福岡地域のみならず日本全体の歴史を研究するうえで重要な意義を持っています。九大は造成や建物配置の計画を変更し多くの遺跡を保存した結果、全国的に見ても遺跡に恵まれたキャンパスとなりました。それら遺跡の歴史的価値を古代史の流れの中に位置付けつつ概説し、今後の整備・保存活用の計画を紹介します。

会場：西講義棟3階工学部第3講義室にて開催します。  
時間：すべての回で、午後1:00~2:30

このセミナーは地球環境工学科建設都市工学コース2、3年生を対象としていますが、どなたでも入場・聴講することができます。

問い合わせ先：  
建設都市工学コース事務室（W2号館3階内線3366）